令和6年度 第2回 松江市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

1 日 時 令和6年8月1日(木) 10時00分～12時00分

2 場 所 松江市役所西棟5階防災センター

3 出席者

(1) 委 員 (8名/12名中)

高橋 泰道委員(分科会長)、岡田 志恵美委員、杉谷 洋美委員、武田 信子委員
長岡 和志委員、畠山 直文委員、福島 喜美子委員、藤原 みえ子委員

(2) 事務局

玉木こども子育て部長、峯こども子育て部次長、藤原教育委員会副教育長、川上教育委員会副教育長、岸本健康福祉部次長、大谷教育委員会次長、加納教育委員会次長、池田こども政策課長、花形保育所幼稚園課長、毛利子育て給付課長、後藤学校教育課長、川島障がい者福祉課長、石倉家庭相談課長、岸本保健福祉総合センター長、奥原生徒指導相談室長、池田人権男女共同参画課長、狩野生活福祉課長、宍道発達・教育相談支援センター調整官、持田こども政策課保育指導官、門脇定住企業立地推進課定住雇用推進係長、原田こども政策課こども政策係長、林こども政策課安心子育て係長、清柳こども政策課こども政策係副主任

4 議事

(1) (仮称)松江市こども計画の骨子について

(2) こども・若者への意見聴取について

(3) 特定教育・保育施設の利用定員について

5 議事の要旨

(1) 事務局から、(仮称)松江市こども計画の骨子について、国のこども大綱の重要事項や、島根県のこども計画の骨子と合わせて説明がなされた。

委員から、松江らしさを計画にも出してほしい旨の意見、「地域の教育力」のためにも人材育成が大事であるという旨の意見、共働き家庭が多い現状に合った居場所づくりをしてほしい旨の意見等があった。また、基本理念の案に対する印象・意見を伺った。

(2) 事務局から、「こども・若者の意見聴取」について、その内容やスケジュールの説明がなされた。

委員より、周知の方法の確認や、設問に対する意見、聴取した意見をどう活用し

ていく予定であるかの確認があった。

- (3) 事務局から、市立城東保育所の利用定員の変更について説明がなされた。今回の利用定員の変更は実態に合わせたものであり、在籍している児童は継続して預かり不利益が生じないことを確認済みである。

6 所管課等

松江市こども子育て部こども政策課こども政策係

電話55-5666

別紙

【原田係長】

それでは、お揃いでございますので、定刻よりは若干早いですが、令和6年度第2回松江市社会福祉審議会児童福祉専門分科会を開会いたします。本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。わたしは司会進行を務めさせていただきます、こども政策課の原田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは続きまして、会議の成立についてご報告いたします。本日のこの会議には、委員総数12名中、半数を超える8名の委員さまにご出席をいただいております。よって、松江市社会福祉審議会条例第7条に基づき、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、これ以降の会議の進行につきましては、条例により会長が議長を務めることになっておりますので、高橋会長よろしくお願いいたします。

【高橋分科会長】

皆さんおはようございます。本日は、大変暑い日が続く中ですが、お忙しい中お集りいただきまして、ありがとうございます。それでは、まず本日の会議につきまして、松江市情報公開条例、それに基づく公開の規定により、公開といたしますが、本日予定されている項目の中で、非公開の基準にあてはまる項目はございますでしょうか。

【原田係長】

ございません。

【高橋分科会長】

はい。それでは、本日の会議を公開といたします。それでは、議事の方に入ってまいります。資料の確認はよろしいですか？

【原田係長】

そうしますと、事前にお配りさせていただいております資料の方ご確認をさせていただきます。もし手元がない資料がございましたら、準備しておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、1番目の議事の「(仮称)松江市こども計画について」でございますけれども、A4横の1-1。それから、「基本理念(案)」と書いてございます資料1-2、1枚紙。それから1-3がA3の1枚紙でございます。「こども大綱に基づくこども施策の重要事項一覧」ということでございまして、続きまして資料1-4。これがA3の縦。3枚ございますけれども、次期しまねっすくすくプラン(県こども計画)施策の展開(案)ということにつけさせていただいております。

続きまして議事の2番目「こども・若者への意見聴取」について、でございますけれども、資料2-1、「こども・若者への意見聴取について(概要)」でございます。続きまして資料2-2、こちらが小中学生のアンケートや若者のアンケートこういったものの一式がついてございます。資料2-3が「まつえの

若者ワークショップ（案）」となっておりまして、資料2-4、こちらが「こどもの意見聴取に係るスケジュール」ということで A3 の横の一枚紙になっております。続きまして、資料2-5、こちらが「令和6年度悩みごと・困りごとに関するミニアンケート」ということで、一枚紙がついてございます。最後に資料3、「特定教育・保育施設の利用定員について」A4 の一枚紙でございます。以上でございますけれども、不足等ございましたら、お申し出いただけたらと思っておりますが・・・よろしいでしょうか、ありがとうございます。それでは、説明の方に入らせていただきます。

【高橋分科会長】

ありがとうございました。それでは議事（1）について事務局からご説明をお願いします。

【清柳副主任】

こども政策課の清柳と申します。

私の方から「こども計画の骨子案」についてご説明をさせていただきます。座らせていただきます。失礼します。

まず、資料1-1をご覧ください。

表紙をおめくりいただきまして、1ページ目、松江市におけるこども計画の位置づけです。

前回の分科会でもご説明させていただきましたとおり、新しいこども基本法に基づいて、あらゆるこども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めたこども大綱が閣議決定されております。このこども大綱や、県の定めるこども計画を勘案しながら、本市のこども計画を策定していきます。現行の子ども・子育て支援事業計画に加え、総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策、子ども・若者計画を包括してまいります。上位計画には、松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画や、松江市総合計画がございます。また資料右側には、連携する計画として、各計画をお示ししております。

続きまして、次のページ、計画の基本理念です。

松江市総合計画においては、2030年の市民の実感として『だれもが「ここに生まれてよかった」「ここで育ててよかった」と感じられる』ということ掲げています。また、平成27年3月に第1期計画として、令和2年3月に第2期計画として策定しました「松江市子ども・子育て支援事業計画」では、一貫して『みんなで子どもを育て“子育て環境日本一・松江”』を基本理念に掲げながら、市民ニーズや地域特性を踏まえた子育てサービスの計画的な整備・充実を図ってきました。

このたび閣議決定されたこども大綱では、全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及び子どもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の養護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現が求められています。

これらのことを踏まえ、「（仮称）松江市こども計画」は、『
』を基本理念に掲げます。」

ということですが、ここで一度資料1-2をご覧くださいたいのですのでけれども、基本理念の候補として、

メインタイトルとサブタイトルの候補をそれぞれ3つずつ挙げております。

メインタイトルでは目指すまちの姿を表現し、

1つめ「誰もが幸せに育つまち」、2つめ「みんなで子育て#（ハッシュタグ）こどもまんなか松江」これは SNS 等によくみられる#をイメージしております。3つめ「こども・若者の幸せがあふれるまち」となっております。

サブタイトルでは当事者の実感、これは保護者目線・こども目線と両方の視線からの実感を表現できればいいなと考えております。

1つめ、「松江のこどもでよかった」、2つめ、「ここで育つてよかったな」、3つめ、「ここに生まれてよかった、ここで育ててよかった」です。ぜひこれらに関しましてこの後ご意見いただきたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料1-1に戻りまして、続いて「基本理念と基本方針」です。

基本方針は大きく分けて3つに定めております。こども大綱や、先日示されました島根県こども計画の骨子の中でも、「ライフステージに応じた切れ目ない支援」「個別のニーズに応じたきめ細かい支援」「こどもの権利が尊重され活躍できる機会の充実」が特に重要な視点とされていますので、本市もそれに倣いました。その上で、今後関心をもってこの計画をこども・若者の皆さんが見てくれた時に、少しでも分かりやすい表現になればと思ひまして、「1生まれる前からおとなになるまで」「2誰ひとり取り残さない」「3みんな大切みんな幸せ」という表現にしております。

それでは各方針ごとに基本施策と主な施策をご説明します。

先ほど説明がありましたけれども、資料1-3が国のこども大綱の重要項目がまとめられたもの、資料1-4が島根県のこども計画骨子案です。よろしければ参考に、見比べながらご覧になってください。まず「・」ですけれども現行の子ども・子育て支援事業計画から引き続いて盛り込んでいくものです。

「○」は内容等を一部見直して盛り込むもの「◎」はこのたび新しく設定する項目となっております。

基本方針①生まれる前からおとなになるまで～ライフステージに応じた切れ目ない支援～

まず「妊娠前から幼児期まで」です。「妊娠期・出産・幼児期までの保健・医療の提供」の主な施策ですが、ひとつめ「○切れ目ない妊産婦・乳幼児期の支援の充実」です。現行の計画においては、「切れ目ない妊産婦・乳幼児期から学童期への健康づくり」とされておりますけれども、このたびライフステージ別に組み替える関係で、学童期を切り離して後ろに掲載していきます。

そして「・親子の健康づくり」「・地域こども・子育て支援事業の充実」「・こどもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」「・食育・飼育の推進です。」

続いて「こどもの誕生前から幼児期までのこどもの成長の保障と遊びの充実」の主な施策が

「・乳幼児期からの心とからだを育む体験の充実」「・就学前の教育・保育を提供する体制の確保」「・就学前の教育・保育の質の向上」「・就学前教育から小学校教育への円滑な接続の促進」となっております。次に学童期・思春期についてです。

「確かな学力の定着」の主な施策ですが、

「・地域の教育力を活かした学校教育の充実」…これにはこの先の具体的な施策の中で、キャリア教育や

ふるさと教育、体力の向上や体づくり、コミュニケーション能力についても含まれております。

そして「・学校教育等における人権教育」です。

続いて「健康な体と心を育む環境づくり」の主な施策は、

「○学童期の健康づくり」「○「給食」を活用した食育、歯育の推進」…これらは先ほど乳幼児のところ
で出てきたものから学童期部分を持ち出しております。そして新しく、

「◎小児医療体制の充実」「◎性と健康に関する教育や普及啓発・相談支援」を加え、「・青少年の育成」
となっております。

「居場所づくり」に関する主な施策は「・遊び場・生活環境の充実」「○安全・安心に過ごせる放課後等
の対策」です。

最後に「いじめ防止等、心のケアの充実」の主な施策は「○いじめ防止」「○不登校の子どもへの支援」

この2つに関しましては現行の計画の細かい内容の部分でも含まれておりますが、このたび重要項目にな
っておりますので、持ち出して項目立てしております。

続いて、新しく「◎体罰や不適切な指導の防止」「◎高校中退の予防、高校中退後の支援」 が加わっ
ております。

次におめくりいただきまして、青年期においては

「若者の雇用と経済的自立に向けた高等教育・就労支援の充実」の主な施策が「・高等教育の修学支援、
高等教育の充実」「・就労支援と早期離職に対する支援」です。早期離職支援となっておりますが、早期
離職の予防であったり、早期離職された方へのその先の支援という観点です。

「結婚支援の充実」に関しては「○結婚を応援する環境を整える」・・・これは、現行の計画の中では
「結婚や出産を応援する環境を整える」という項目なのですけれども、出産に関しましては前の段階で盛
り込みますので、ここでは「結婚を応援する・・・」とさせていただきます。

続いて「悩みや不安を抱える若者や家族への相談支援の充実」については、「・自立相談支援」

「・就労準備支援」「◎ニートやひきこもりなどに対する相談体制の充実」とし、これが新設となります。

続いて子育て当事者への支援です。この分野に関しましては子ども・子育て支援事業計画に充分盛り込
まれておりますのでほとんどが引き続いて組み込まれていくことになります。

まず「子育てや教育に関する経済的負担の軽減」の主な施策は「・児童手当等の給付」「・こどもの医療
費負担の軽減」「・就学前の教育・保育施設の利用者負担の軽減」「○就学に伴う経済的支援」です。

続いて「地域における子育て支援、家庭教育の支援」については、「・地域子ども・子育て支援事業の
充実【再掲】」「・地域全体で子育てを支える取組」「○家庭の子育て力向上の推進」こちらは現行の計
画の中で「家庭と地域の子育て力向上の推進」となっておりましたが、地域部分が、上の「地域全体で子
育てを支える取組」と内容がほとんど重複するものでしたので、「家庭の子育て力向上の推進」としてお
ります。

次に「安心して子育てや仕事に取り組むことができる環境づくり」の主な施策「・多様なニーズに対応
した子育て支援事業の実施」「・企業における仕事と子育ての両立支援」「・保護者の就労支援」

「○男性の家事育児参加促進」こちらは現行で「男性の育児参加促進」となっておりますけれども、こ
ども大綱の項目と揃えまして、「男性の家事育児参加促進」とさせていただきます。

次に「ひとり親家庭への自立支援」については「・子育て・生活支援」「・経済的支援」「・就業支援」「・養育費の確保」「・各機関、他自治体との連携」となっております。

続きまして基本方針2 「誰ひとり取り残さない ～個別のニーズに応じたきめ細かい支援～」に参ります。

まず「こどもの貧困対策」の主な施策は「・相談支援体制の充実」「・居場所づくり」「・教育の支援」「・経済的支援」

「障がい児支援・医療的ケア児等への支援」は「・教育・保健・福祉・医療等が連携した早期発見・相談支援体制の充実」「・障がいのあるこどもが地域で体験活動と交流ができる取組」「・福祉サービスによる障がいのあるこどもへの支援の充実」そして「◎インクルーシブ教育システムの実現に向けた取組」が新設です。

「外国人のこどもへの支援」は「◎多文化共生の地域づくり」「◎帰国・外国人児童生徒等、日本語指導が必要なこどもへの支援」「◎多様化・複雑化する外国人のこども・家庭への相談窓口の機能強化」

と、すべて新設となっております。

「児童虐待防止対策と社会的擁護の推進及びヤングケアラーの支援」については「・児童虐待の予防事業の充実」「・児童虐待の早期発見と支援の充実」「・社会的擁護体制の推進」そして「◎ヤングケアラーへの支援」が新しく加わります。

「こども・若者の自死対策、犯罪などからこども・若者を守る取組」ですが「・こどもを犯罪などの被害から守るための活動」「◎こども・若者の自死予防と心のケア」「◎性犯罪・性暴力対策」「◎非行防止と自立支援」と、3つ新設となっております。

「慢性疾患・難病を抱えるこども・若者への支援」の主な施策ですけれども、○慢性疾患、難病のあるこどもを持つ・・・のところですが、一つ訂正をさせていただきます。こちら正しくは、「慢性疾患、難病のあるこどもと家族への支援」となります。失礼しました。

こちらは現行で「疾患や障がいのあるこどもと家族への支援」となっておりますが、障がいに関することは基本施策に持ち出されますので、こども大綱に揃えて「慢性疾患や難病のある・・・」としております。あとは「◎小児医療から成人医療への円滑な移行に向けた支援」が新設です。

最後に「基本方針③みんな大切 みんな幸せ～個人が尊重され活躍できる機会の充実～」です。こちらはこれまでの計画にほとんどなかった分野でございまして、すべて新しい項目となっております。

基本施策「こども・若者の権利についての理解を深める取組の推進」の主な施策が「◎こども・若者が権利の主体であることの共有と人権教育の推進」「◎こども・若者の可能性を広げていくためのジェンダーギャップの解消」「◎こどものSOSの出し方に関する教育の推進」「◎こども・若者の社会参画や意見表明の機会の充実」となっております。

「たくましいこどもの育ちを支え、若者が活躍できる社会づくり」については「◎多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり」「◎こども・若者が安心・安全に過ごすことのできる居場所の充実」「◎地域における包括的な支援体制の構築・強化」「◎若者が主体となって活動する団体等の活動を促進する環境整備」「◎こども・若者、子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」としております。

なお、島根県のこども計画の骨子案も今後協議等を重ねて変更が生じうるものでありまして、本市のこ

ども計画骨子も大きな枠組みとしてはこの方向性で進む予定でございますが、細かいところ・・・例えば、国が「自殺対策」としているところを島根県と本市では「自死対策」としております。このような、細かい部分でより望ましい表現への修正などは、今後、関係各課さんとの協議の中で生じる可能性がございますことを申し添えます。 以上です。

【高橋分科会長】

ありがとうございました。では、先ほどの内容につきまして、ご意見・ご質問等伺いたいと思います。資料がたくさんございますけれども、まず全体で、ございましたらよろしく願いたします。

【福島委員】

失礼します。市P連の福島です。よろしくお願いします。わたしは市P連の会長もさせていただいてるんですけど、県P連の副会長も務めさせていただいておりますので、このしまねっこすくすくプランの計画の方にも携わらせていただいているんですけど、この前も、しまねっこすくすくプランについての話し合いも長時間にわたってしたんですけど、すごく皆さん意見が活発で楽しい会になったので、松江のこのこども計画もそんな感じでできたらいいかなと思っております。このしまねっこすくすくプランの中で、意見出たのが、この中で「島根らしさ」が全くないっていうのを、言っておられて、施策とかは本当にしっかり立てられているんですけど、島根の自然を生かしたことだったりとか、行事、そういうところも味わわせることで、島根で育ってよかったなとか、そういうところを意見で出て・・・それを考えると、「松江らしさ」がないというか。松江の自然だったり行事だったり、そういうのも、しっかりこう、こどものときに味わせていくと、「ああ、松江で育ってよかったな」だったり、その行事を味わうことで、いろんな大人と関わったり、こどもだけじゃなくて青年期も悩みいっぱい抱えているんですけど、そういうところで地域の役割というの、出てくるんじゃないかなと思うので、松江らしさが出てくるといいかなと思えました。

あと、居場所っていうのが、今までの居場所と最近の居場所っていうのが違ってきているかなという話題にもなり、今までは学校が終わって、親が仕事から帰ってくるまでの間の居場所を作るっていう感じだったんですけど、また少し最近のこどもたちの抱えているものって居場所っていうのも違ってきているかなとも思うので、ただ学校が終わって親が帰ってくるまでの場所っていうのじゃないところもしっかり考えていかないといけないかなと思えました。感想です。以上です。

【高橋分科会長】

はい、ありがとうございます。最初の松江らしさについて、事務局側お願いします。

【池田課長】

ご意見いただきまして、ありがとうございました。おっしゃるとおり「松江らしさ」をいかに出していくかっていうのは、いろんな計画において大事なことという風を感じております。個別の事業の中では松江らしさというか松江の地域資源や、人とかですね、文化とか、そういったものを活用しながらというのはやっております。例えば、昨年度策定しました「幼児教育こどもまんなかビジョン」については、松江

の特徴を生かしたビジョンができないかという視点で策定をいただいた部分もございます。なので、松江市のこども像であったり、保育者像みたいなものであったり、設けたりしながら、地域の資源をいかに活用していくかという視点も取り入れたところもございます。それから、具体的な事業というのは、それぞれ松江らしさを設けておりますが、なかなか計画になるとそこが見えにくい部分がございます。そのあたりまた、見せ方の部分にもなるかとは思いますが、例えば基本理念もその松江らしさの一つかと思えますし、そういったところも検討しながらですね、今後策定については進めたいと思います。ありがとうございます。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。ではまたおっしゃったように、基本理念のところ松江らしさが出るように、後でこれはまたご意見伺いたいと思います。

各団体等でいま抱えていらっしゃる課題などと、今回の施策と合わせて見られて、ご意見、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

【畠山委員】

今、松江らしさというその辺のご指摘があって感じたのですが、やはり基本方針の「学童期」の中で最初にありますが「確かな学力の定着」というところで、「地域の教育力を活かした学校教育の充実」というのがあがってます。確かにとても大事なことだと思うんですが、案外地域には教育力というか、いろいろなものを持っておられる方というのがいっぱいおられるんです。それをどう生かしていくか。ニーズ・・・「誰かおらんか」というのも、公民館なんか来ると、つなぐことができます。学校って、忙しい時間、忙しい実務、限られる中で、「こういうことがしたい」。そして地域の教育力を生かした・・・まあふるさと学習ってよく呼ばれますが、教師というか、人を育てていくことがやはり大事になっていくんじゃないかなと思います。それは公民館の職員もです。昨日まで、一週間、8日間かな？公民館で夏休みの宿題を一緒にやろうっていう、前半勉強、後半いろんな活動をやって、最後にはみんな水風船を投げ合って、それぞれ遊んで、カレーライス食べて、もう参加したこども達は満足して帰っていきました。宿題も多少ははかどったと思うんですが、それ以外にも人とのつながりが深まった、いい8日間だったんじゃないかなと思います。それを仕組んだのが公民館のボランティアの一人を中心に関係者が集まって、それ以外にも中学生や高校生が主として出て行って、活動を進めていった8日間だったんです。こういうやっぱり「人」を育てる。公民館職員もそうなんですが、こどもが「ここでおって良かったな」と思えるような、体験、学習教育をしていかないといけないのかなと、かなり感じております。これまでも課題としてあがってはいるんですが、ぜひ、学校の先生方も「何かをしでかす」という表現は悪いかもしれませんが、「やってみたい」ということが持てるような、先生づくりというか、人づくりも大事にしていただければいいかなという風に思いました。以上です。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。人づくり、人を育てること、大切だと思います。今のお話を聞いており

ましたら、居場所づくりなんかにも関わってくるところなのかなと感じます。

いろいろと広いですので順に、一つずついきたいと思いますけども、最初の位置づけのところから、基本理念のあたりで、何か感じられたことやご意見などございますでしょうか。松江らしさというところにも触れてみたらということでしたけども・・・よろしいでしょうか。では、またありましたらお願いしたいと思います。この、タイトルのところは下の方針③までやってから、戻って、タイトル決めということでもよろしいでしょうか。では、基本方針①の「生まれる前からおとなになるまで～ライフステージに応じた切れ目ない支援～」この基本施策や主な施策、このあたりについて、ご質問やご意見がございましたらお願いします。先ほどからは「確かな学力の定着」や「居場所づくり」に関するところでのご意見いただいておりますが、その他、それぞれの団体の課題等との、対応していく対策とつながっているのかどうかというのも見ただけたらと思いますが・・・。

【杉谷委員】

小学校校長会の方から出ております、杉谷といいます。よろしくお願いたします。先ほどいくつかご意見があった中で、まず一点居場所づくりというところで、放課後については、3年生以下のところ、児童クラブ学童クラブというところ、本校なんかもほぼほぼ全員、9割くらいの児童が活用している、今共働きということで、おじいさん・おばあさんが近くにおられても、こどもとしてはそこに帰るより、学童の場でお友達と学んだり遊んだりっていうところでの居場所というところは十分保障されているかなと思います。ただ、それ以上のこども達、それから夏休み期間となると、先ほどお話しがあったように、公民館でのボランティアによるてらこや事業にこの夏休みも何回か顔出しをさせていただいているんですけども、かなり4年生以上の児童も参加をしていて、親さんからニーズもあって、こども達も安定した生活をそこで送ることができるっていうところで、居場所づくりのところ放課後等の「等」のところにある意味入っているかなと思ったんですけども、長期休業中であるとか、そういったところの居場所づくりっていうところも、この施策の中に含まれていけばありがたいなと思ったところです。

それから、教員の人づくりっていうところの話題もありました。学校の方も、いろいろと活動を見直しながら教育活動はすすめているところです。なかなかいろんな実情がありながらではありますけれども、地域のボランティアの方、それから学校地域コーディネーターの方に本当に助けていただきながら、取組をいろいろとすすめているところです。いま学校として大事にしたいこととしては、いろんな活動を精査しながら、どんなねらいでやっていくのか、というところに先生方としては視点をしっかりもったものを立てていただいて、地域の方、活用できるところは活用して、自分たちのふるさと、地域を素敵なおとこだな、大事だな、好きだなっていう、小学校なので、そういう種をたくさん撒いていきたいという事を、考えているところです。ご意見いただいた「人づくり」というところ、研修、それから活動を踏まえながら、こちらとしてもやっていけないかなという感想を持ちました。で、1点「給食を活用した食育、歯育の推進」ってところが、これってどういうところなのか、学校として健康教育として取組はするんですけど、日々の給食指導の中で、食育歯育っていうところ、重点的に言葉掛けはしていくんですけども、現在のところは年に何回かの健康教育として、栄養教諭の先生方を招いて指導していただくという形・・・歯育についても、歯科検診などがあった時に養護教諭がいろんな掲示をしたりとか、

おたよりを出したりっていう形で、子ども達へ歯磨き指導ももちろん行ってはいるんですけど、そういったことなのか、それ以外、もうちょっとここがよく分からなかったんですけども、ご説明いただければありがたいなと思います。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。まず、居場所づくりを長期休業中の部分について、この「等」というところで組み込むことができるのか、加えた方がいいのか、というところでご意見いただいておりますけれども、お願いします。

【加納次長】

生涯学習課の加納と申します。よろしくお願いたします。今の、放課後等のところで居場所づくりという事でお話をいただきました。先ほど杉谷委員からもありましたけれども、放課後等というところと児童クラブの事業も実施しております、保護者の皆様が働いておられる如何に問わずにご参加いただくとかで言えば「こども教室」ですとか、あと夏休み等を中心に、公民館等でも寺子屋事業など、実施をいただいております。この寺子屋の事業なども、今年度はまた1ヶ所、箇所数も増やすことができっておりますので、そういう充実に引き続き、取り組んでいきたいと思っております。

【杉谷委員】

ありがとうございます。はい。引き続きのところ、子ども達が過ごせる場があるっていうのが今年、安心して、学校以外の場所で過ごせるっていうことで、今のお話を聞いて安心しているところです。

【池田課長】

こども政策課の池田でございます。

基本方針①のところの、主な施策のところ、杉谷委員の、おっしゃった給食を活用して食育歯育の推進ということで、掲載をさせていただいております。

これ現行の計画、子ども・子育て支援事業計画の中では、「給食を活用した食育の推進」、という項目と、あと「歯の健康の推進」という、これ、少しもう少し細かくなると2つに分かれておまして、イメージとしては、「給食を活用した」というのは「食育」までの部分でこれ、「歯育」については、「歯育の推進」みたいなイメージで「歯の健康の推進」というイメージでございます。

ちょっと表現としてわかりにくい部分があるかと思っておりますので、少し表記の仕方については検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。この主な施策が出て、この後また、さらに詳しい内容が文章化されていくということでよろしいでしょうか？

【池田課長】

こども政策課池田でございます。

おっしゃる通りでございます、この主な施策の下に具体的な事業が幾つかこう並んでくるというようなイメージでございます。

【高橋分科会長】

ということですので、ここには「放課後等」という形にはなってますけども、さらにおろしたところで、長期休業中のこととか、今の「寺子屋事業」のこととか、そういったところが入ってくるという形で捉えてよろしいですね、はい。ありがとうございます。

それから、今の「歯育」についてですけども、これも表現続けて書いてあるんで、誤解を生む可能性があるんで、またご検討お願いします。

その他、このページでお気づきのことございますでしょうか。

【福島委員】

福島です。逆に、この、基本方針①のところ、「ここをどう思いますか」という、ところがあった方が何か意見が言いやすいかなと思うんですけど、何かこう立てられて、「ここどうですか」というのがありますか？

【池田課長】

こども政策課池田でございます。

もし分かりにくいところとか先ほどの件みたいに分かりにくいところがあればぜひ教えていただきたいという風に思いますし、とりあえず骨子の段階でございますので、我々としてちょっと知っておきたいなと思うのは、各団体からお出かけいただいておりますので、今、各団体が「こんな課題があるよ」とか、「こんな取り組みしてるよ」とかっていうことがもしあればですね、ご教示いただければ非常にうれしいなという風に思っております。

【高橋分科会長】

はい。よろしいでしょうか。各団体の方での取り組み。やってることが、この施策の方と、重なっているのかというのが、今ご説明のことです。

福島委員からのところで、この、「・」よりもむしろ「○」とか「◎」のところは新しく、また更新されたところがございますので、その辺も見ていただけたらいいのかなと思います。

失礼します。

ところで、この黒、黒点。

よりもむしろマルとか 20 万のところは新しく、から更新されたところ、その辺も失礼します。

【岡田委員】

失礼します。民児協の主任児童委員部会から出ております岡田といいます。

ちょっと全体的な意見になるとは思うんですけど、先ほどから出てた居場所とか家庭支援とかいうところの、細かい施策になってからの希望ですけど、今の働き方も複雑になってきて、両親とも働いておられて、こどもの居場所が、放課後のみならずその不登校になった子たちの居場所とか、また、居場所の目的は多様になっていると思われまして、学習指導のところもそうですけど、今、民生児童委員の中では、そのこどもの体験不足がちょっと心配かなっていう感じを受けておまして、家庭を含めて、やはり経済的困難な家庭なんかだとそのこどもの体験を確保するっていうことは難しい状況なので、どうか夏休みもそうですけど、こどもをどこにも連れて行かれなかったり、地域の居場所のところへ参加させるかこども食堂とか、そういう利用される方が結構増えてきてまして。

その体験の確保ってところを、やっぱり地域と地域で活動されている若者の団体がすごくたくさん最近増えていると思われまして、そういうところも協力して、1ターンとかUターンとかで、若い人たちが活動されている団体を、利用される施策っていうか、学校へ派遣したりこども達をその団体のところで、活動を紹介したり、一緒に活動したりという、活動の場を、何とかこども達にたくさんさせてやりたいなと思われまして、そういうところ個別の施策で反映させていただくと嬉しいなと思います。

【高橋委員】

ありがとうございます。

この、体験の部分については、この①のところもありますけど、③の基本方針③の下のあたりのところで「多様な遊びや体験」とありますが、そのあたりと関連して、いまの1・Uターンして、活動されてる団体でそういうことを活用していただけたらというご意見でございます。ありがとうございます。

【武田委員】

こどもと言っても、乳児から段階があるんですけど、そのつなぎ目といいますか、そういったところで何となく縄張りあって、その前の、こどもを中心ではなくて、場所、場所が、場所だけがそこにあればいいという感じであるなと考えているんですけども。

特に障がいをもったこども達で、小学校に入るとか中学校に入るとかどどん形を変えていく時に、それだけじゃないですね、夏休み入るとか、それからあと、放課後は放課後児童デイというものができて、大変松江市たくさんたくさんできていて、いろんなところを利用するこども達が増えています。

それを増えてもみんな個別にこどもを見ておられて、全体でこどもを見る目がどこにもないというのが問題だなと思っております。で、今養護学校に関わったり、特別支援学級のこども達と、夏休み関わったりしてますけども、うちの通ってるこども達は、前の段階、たとえば、本庄小学校の方が来られた時は、本庄小学校行って、まずこどもと挨拶して、「こういうお子さん達いるからよろしく」というような、あのつなぎ目といいますか。こどもは荷物じゃないので、ついてくるっていうことじゃなくて、おそらく一年生のお子さんだったらその真ん中のところに行って「こういう人がいるよ」「こういうことしてるよ」「一緒

に遊ぼうね」と、そういうことをして、こどもが不安にならないようにとか、こどもが今どんな状況なのか、見に行くことというのを一応大事にしてるつもりなんですけど、

こうやって分けちゃうと、こどもがポンポンと放り出されるような、そんな雰囲気を感じてなりません。つなぐのは誰かな・・・親が忙しくなってきたて、なかなか、行かせる行かせる・・・こういった、今頃は、計画を作ってくださいの方がおられるので、そういう人に預けておけば安心安心っていう、親も不安なのでそういった状況になっていて、こども達は本当に安心して、ここにいるのかな、このまちにいるのかなっていうのが一番、不安です。

そういった意味で、地域がなかなか分からなくなってきてて。親も地域の人じゃなくなってきつつあって、時間は全部仕事にとられちゃって。

そんな中で地域でこどもを育てるとか、昔から比べてずいぶん違ってきてて、こども達の居心地の悪さ、それが普通になっちゃっているんで、居場所っていっても行きにくくなってんじゃないかなって思います。取り留めのないことですが、いろんな状況にこども達に置かれているなあというのをすごく感じます。

【高橋分科会長】

はい、ありがとうございます。今のところ、①だけじゃなくて障がい児の話も出まして、②にも関係してくるのかなというところで、その辺のご意見もまた反映させていただければと思いますので、よろしくをお願いします。何かありますでしょうか。

【池田課長】

こども政策課池田でございます。おっしゃる通りこどもの視点っていうことで、何をしていくのか、どういうこどもたちがどう思ってるのかっていうことが、非常に今回の計画の肝の部分だという風に考えております。こども目線で何ができるのか、今まで行政が保護者支援、こどもの支援ということでやってきたんだけど、実はこどもがどういったことを思ってるのかっていうのは、非常にこの施策、この計画を作る上で、非常に大切な視点になってくるというふうな考え、そういう意味でまた後程、ご提案させていただきますけれども、こども若者の意見聴取というところを、今回、ちょっと探り探りの部分もございませうけれども、まずやってみようということで、考えているところでございます。

こういったことを踏まえてですね、特に後程出てきますけど、そのこどもの居場所みたいなのところでもですねアンケートの中に入れております。ただ意見をこう、なかなかこう、顕在化しにくい層もあるというふうな思っておりますので、そこをまたどうやって聴取していくのかっていうことも、ちょっと考えながらですね、検討していきたいというふうな思っております。

貴重なご意見大変ありがとうございました。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。資料2のところですね、そういったところの案の対応も考えておられるそうです。時間もありますので、青年期、それから子育て当事者への支援のところでご意見等ございませうでしょうか。

【福島委員】

市 P 連の福島です。子育て当事者への支援のところで、地域における子育て支援教育の支援なんですけれども、私は小学校中学校義務教育学校の保護者の団体なんですけれども、やっぱりいろんな学校、保護者さんに呼ばれ、そちらに行ったりとか、そういう中で、やはり家庭の子育て力向上っていうのが、やはり保護者としても、保護者さんを見ていて、すぐ何か人のせいにするというか、やはりどこと誰々がこうしたとか見てくれないとかっていうのを、私たちのところにもやっぱり、言ってこられたりとかするんですけども、やはりこどもは親が傍にるのが一番ですので、ここも家庭の子育て力の向上というところ、あと元気のいい大人のなんか育成みたいなことも、活動しながらやっているところなので、ここもしっかりと一緒にやっていきたいなと思っています。感想でした。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。

前から家庭の教育力が下がってきてる、すべて学校に任されるということがあって、逆に学校の方でいろいろ教育しないといけないという現状がありますけど、今一度、家庭での教育の見直しというところ、取り組ませていただきます。ありがとうございます。そのほか、①に関してありますでしょうか。

【長岡委員】

保育所保護者会連合会の長岡です。子育て当事者への支援というところで、市も県もなんですけれども、子育てに関する給付であったり、経済的支援であったりとか環境的な支援っていうのはすごくしていただいて、とてもありがたいなと思っています。

それはありがたいんですけども、一方で預かっていただいている保育所や、それから、そういったところの職員さんの給与や働く環境っていうのも、整えていただきたいというのがすごくあります。

あと青年期のところの結婚支援のところで、どういった場合においても少子化っていうのはすごく問題にあがってきていて、今後も問題になってくると思うんですけども、県のアンケートで、結婚をしたいっていうのは意識として高いんだけど、しない・できない理由としては出会いの場がないっていうのが1つ、あと経済的にすごく不安を抱えているっていうので結婚しないっていうのがすごくアンケートの結果として見てですね、民間企業も行政もそうなんですけども、給与アップっていうのは、経済的によくしていくっていうのが1つなんですけども、これだけこの子育て当事者に対する支援というのはすごく、していただいて、手厚くしていただいている中で、やはりPR不足というか、結婚しない理由として、経済的不安っていうのがある中で、いやでも子育てに関する支援はこれだけやっているんですあるんですけども、要は知らないから不安がある、解消されない。

これだけの支援があるんだったら、安心して育てるなんていうのは、こうあって「じゃあ結婚しようかな」っていうのに繋がるのかな。

現状っていうと、こどもを妊娠して、研修とかに行き、行政の方からこういった支援ありますよ。と、当事者になって、と言ったら言い方が悪かわからないんですけども、そういう環境になって初めてこういったものがありますよっていうのが伝えられるんですけども、その前からこういったものがあるんで

すよっていうのを伝えていくことによって、じゃあ安心して、こども育てられるなって結婚しようかななんていうのに繋がっていくのかなと。市だけじゃないんですけども、県とかもなんですけど、こういった支援があるんですよ。安心して育てていけますよっていうのが、それは安心してっていうのは人によってそれぞれだと思うんですけども。

ていうのをすごくPRをしていったらいいのかなっていうのは、県の会議でも言ったんですけども。

されてはどうかというところ。そういうのを今後まとめて、子育て環境だけじゃないですし全体の事業としていろんな補助金がそれぞれあると思うんですけどもそういったもの、すごく、一般住民としてはわかりやすくこうまとめていただけたりとか、一目で見えるようなものにしていただくと、すごくありがたいのかなというところがあります。

できれば松江市にはこういった子育ての支援がある。あわせて県もこういったのがありますよとか、一緒に使えますよとかそういったのをしていただくと、すごくその保護者としてはありがたいのかなと思いました。以上です。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。

いろいろ支援が行われて、こういう風なものを伝えてはいるけど、それが充分伝わっていないのではないかという意見でございますが、そういったところはいかかでしょうか。

【池田課長】

こども政策課池田でございます。

先ほどのご意見はどちらかというところ、青年期に対してどういう風な子育て支援が充実してるかとかそういったことをPRしていくかっていうこと、お話だったかなというふうに解釈しております。

結構やっぱ市民の方にとってこれ子育て世帯も含めてなんですけど松江市がいろいろとやtingることがきちんと伝わっていないという課題を数年前から感じておりました。

市民の方からもそういったご意見もいただいておりますので、令和4年度と5年度で、情報発信を強化していこうということで、情報発信強化事業というのを取り組んでいるところでございます。

その中の1つにホームページ、松江市のホームページに子育ての情報がいろいろと散らばっておりますので、もう少しわかりやすくするために、子育てのページというのを作りましてですね、例えば転入を考えた方も含めて、子育て世帯にいかにかこうPRをしていくかという1つとしてそういった取り組みをしたところでございます。

そういった形でなかなか伝わりにくい子育ての情報を少し一元化して、発信していくという取り組みをしたりあえてAIコンシェルジュで情報発信をしていったり、様々なツールを使って取り組んできているところですが、おっしゃったその青年期に向けてのアプローチってというのは今までないことですので、少しそういったことも含めて、少しアプローチの仕方、検討させていただきたいという風に思います。ありがとうございます。

【高橋分科会長】

よろしいでしょうか。実際、青年期ではなかなか、ホームページを見ない。むしろ、SNSを利用して発信していく方法もあるのかなと、私の方も感じておりました。ご意見ありがとうございました。

皆さんよろしいでしょうか。私の方から1点ですけども。

先般の学力調査の結果も出たりした中で、やっぱり家庭での、どれだけ自分で学習してるかという部分と、それからスマホ・ゲームで遊んでしまう・・・これは学力が書いてなくて、最初のその、健全な健康な体と心を育む環境づくりといったところでも関係してくると思うんですけど、そういったICT、学校ではもちろん、授業にうまく活用していただきますけども、家の方で持ち帰ってのYoutubeばかり見てるとか、そういったところでの心の面・健康の面の視点っていうのは、最近デジタル社会とか言われていますけども、そういう視点なんかはここにはあるでしょうか。

【池田課長】

こども政策課池田でございます。

現在ですね、市の方では、いかにメディアと上手につき合っていくかという視点で、例えば保育所だったら保育所に出向いて保護者向けだったり職員向けだったり、こども向けだったり、この研修という形で実施をしております。そういった視点での取り組み、学校も含めてですね、そういった視点での取り組みを行っているところでございますので、今後具体的な事業のところの中で、どこかにこの、このカテゴリーの中のどこかに入ってくるものだという風に考えております。

【後藤課長】

学校教育課の後藤と申します。

先ほど子育ての課長さんの方からもありました学校の方もですね、このメディア教育をどうしていくのかということ、非常に学校だけではなくて家庭学習も含めて課題だという風に思っています。

皆さんもどう感じられるかわからないですけど、メディア教育って言ったときに、どういうことをイメージされるのか。実はそのすごく幅広くてですね。メディア教育って言ったときにですね、例えば健康面のこと、メディア接触がちょっと多くて、健康面のことを心配されるということであったり、例えば情報モラル的なことを心配される。

最近はやりよい使い方というか利活用をどうしていくのかということ、学校こども達1人1台端末を持っていますが、家帰っても勉強に使っていく。そういった視点も入ってきます。

今回この計画の中で、多分いろんなところに関わる部分があるかと思えます。ぜひですねそういった視点も踏まえて、どういったところに位置付けていくのかということも、こちらでしっかり考えていかなくちゃいけないという風に思っているところでございます。

【高橋分科会長】

はい、ありがとうございました。新たな視点だと思いますけどまた、取組の方よろしく願いいたします。それでは、③のところでお気づきの点がありましたらお願いしたいと思います。

なければ、私の方から一つ、②のところで、誰一人取り残さないということで、前回いろいろとご意見いただいたところで、ヤングケアラー、外国人・・・様々な多様な子ども達を取り残していかないということですけど、一つ、LGBTQ ですか、そういった視点もこの中に含まれているのかという事をお伺いしたいと思います。多様性っていろいろあると思いますけども。

【池田課長】

子ども政策課池田でございます。

基本方針③のところで、子ども・若者の権利について理解を深める取り組みの推進の中で、◎の2つ目、上から2つめで子どもの可能性を広げていくためのジェンダーギャップの解消というところが、記載がございます。

【高橋分科会長】

そのところに含まれていくということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

その他③のところで、よろしいでしょうか。また、最終的に気づきのことがございましたらよろしく願いいたします。

【岡田委員】

ここで1つ言っておきたいんで、基本方針2に関わると思うんですけど。外国人の子どもへの支援というところで、多文化とか多様性を認める地域性みたいなところが求められてると思うんですけど。

ちょっと最近外国籍以外のところの、地域の差別的な感じを見受けたことがあります。その外国籍とかに関わらずやっぱり人権教育は早いうちにしないと、その見た目とか髪の色とか見た目とかその、タトゥーを入れてるとかそういうことでやっぱり判断されると、子どもが学校生活がしにくいなという事例があったもんですから、せっかく馴染んできてても親がそうやって地域で認められなくて、拒絶されると転居してしまわないといけなくなるという、地域性もありますけど、少しそういうところを、いろんな形で啓発していただくと、人権教育を、子どものときから大人が少し古い人間が多くなっていく気はしますが、高齢化社会ですけどそこら辺もやっぱり高齢者に向けてもそういうことで、人権教育を進めていった方がいいかなって気が最近しておりますのでちょっと一言言っておきたいなと思いました。

【高橋分科会長】

ありがとうございます。そのあたりはいかがですかね。多様な子どもっていうところで、そういった、課題というか、古い見方というか、昔から言われておりますけれども。

【池田課長】

少し、今後、具体的な事業を少し検討する中で、ちょっと考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

【高橋分科会長】

はい。よろしいでしょうか。そういった確かに、言えることであると思いますので、参考にさせていただければと思います。

はい。では、案件として残っていますが、タイトルの方なんですけども。基本理念の案。メインタイトルとサブタイトルがあって、完全にこれっていう風に決めるわけではなくてですね、大体、どんな感じかというところで。

今、2、3挙がっているんですけども、これらが横に繋がってるわけじゃなくて、メインタイトルの3つと、サブタイトルの3つの中で、これがいかなんというところを、簡単にご意見いただければいいかなと思います。

【福島委員】

市 P 連福島です。メインタイトルが、「誰もが幸せに育つまち」で、サブタイトルが一番下の「ここに生まれてよかった、ここで育ってよかった」がいかなんと思いました。

【畠山委員】

まだ全然考えてないんですが、それは必ずメインがあって、サブがつくようなケースなんですか？

【池田課長】

子ども政策課池田でございます。こちらの考えとしては、記載もありますけど、目指すまちの姿があって実際当事者がどういったような実感があつたら目標達成でもないですけど何かそういったことが、あるかなという視点で書いております。

もしよければ、そういったような2つを並べた方が、より身近にというか、実感していただけるところかなという風なことを思っております。

【高橋分科会長】

いわゆるセットという感じ、目指すまちの姿と、当事者の実感というところで、考えていただければという事ですね。

【畠山委員】

MATSUE DREAMS 2030では、もうすっきりと、「ここで生まれてよかった、ここで育ってよかった」と。それから「夢がかなうって思う」とか。もうすっきりさっきりしてもいいのかなと思って。ただ、そのままサブタイトルだけでは不十分なんじゃないかな。必ずなんかタイトルだつてことが必要なんじゃないかな。すっきり分かりやすくてもいいのかなと思って。

【高橋分科会長】

どうしてもこの二つを重ねなくてもいいのでは、というご意見でしょうか。

【畠山委員】

もうすっかりと、「ここで生まれてよかった、ここで育ててよかった」でもいいのかなと思います。

【武田委員】

わたしも、何で二つ？という感じだったので、畠山委員と一緒にです。

【岡田委員】

基本方針②とかはいいなと思ってたんですけど、さらにこの上の基本理念を考えないといけないって時に・・・この中から言うと「誰もが幸せに育つまち、まつえ」にしてほしいなと思います。「まつえ」が入るといいなと。サブは皆さんと同じように、一番下の「ここで生まれてよかった、ここで育ててよかった」がいいなと思います。

【杉谷委員】

基本理念っていうのが、全体の考え方を端的にイメージしやすいものもいいのかなあと私は思っています。そう考えて、先ほど、松江らしさっていうことも言っていたので、私、もうちょっと合わせたらどうかと思ったら、誰もが幸せ育つまちっていうことで、そういうこどもの立場から見たものもそこに含まれてるかなと考えたのと、ここにこの表紙のところに、このなんか「こどもまんなか」っていうことが書いてあったので、松江市はこどもを真ん中にすえて、誰もが幸せになるよっていう、まちづくりを進めていくんですよっていうこの計画の持っているそういう方針的なものがパッとわかるかなと思って、1つ目に、この「こどもまんなか松江」っていうのがくっいたらそれがサブタイトル側に回って、その当事者はなくてもいいかなって思いました。

【高橋分科会長】

これは何か意図があるんですか。

【池田課長】

すみません。特に意図はございませんで、こども家庭庁が使っていた「こどもまんなか」のロゴを使わせていただいただけです。

【高橋分科会長】

ここに今のタイトルがボンとくる感じですか。この表紙の。

【池田課長】

この表紙は全くこの会のこの第2回のためだけの資料でございまして、これが計画のデザインになるということではございません。

【長岡委員】

長岡です。今これ、「この会のためだけ」と言われたのであれなんですけど、1枚目のこの真ん中のこのロゴみたいなのをを使うのであれば、「みんなで子育て#こどもまんなか松江」のほうがいいのかと思ってはいましたけども、誰がこれを見るのか、なぜこの政策を作ったのか、大人についていうか現状子どもに向かっているということであれば、「誰もが幸せに育つまち」とかの方がやっぱり、町としてはすごくいいなと。若い世代に向かってだと真ん中の「みんなで子育て#こどもまんなか松江」でこのロゴみたいなものを使った方が見やすいというか、イラストとかグラフィアみたいなのがあった方が、やっぱりいいのかな、見る側としては思いました。

【藤原委員】

よくわからないんですけど、やはり文字ばかりではなくて、やっぱりこういうロゴがあると入りやすいというか、何か文字ばかりだと、とっつきにくい、見る気がしない。皆さんの意見に、同意いたします。「こどもまんなか」というイラストのようなものを入れた方が入りやすいです。

【高橋分科会長】

ありがとうございます。なんかこの3つからちょっと外れてきたところがあって、表紙に惑わされてしまったという。実際この回だけのものじゃなくて、こういう感じで、幼児教育ビジョンはそんな感じで、できたので、見られる時はまた違うと思いますけども。

今のメインとサブと両方入れるかどうかというところ辺と、それから、メインについては、「だれもが幸せに育つまち」そこには「まつえ」っていうさっき冒頭でご意見いただいた、松江らしさ、ていうところでのそういったのが入ったらいののかなというご意見、それから、若者にもこれは読んでもらう。市民全体、若者に目を向ければ、真ん中の「#」みたいな、それからここの表紙に、このような形だったら「こどもまんなか松江」みたいな感じで。サブタイトルについては今後のアンケートの様子もあるかもしれませんが、一番下の「ここに生まれてよかった、ここで育ってよかった」がいいのかなというところで、今日のところはこれでよろしいでしょうか。

【池田課長】

はい。ありがとうございます。ちょっとまたご相談させていただいて、また次にご提案させていただければと思っておりますがよろしいでしょうか。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。

ちょっとなんかのんびりご意見伺ったら、時間が大分迫ってきましたので、続いて、次第の議事(2)の方で、こども・若者の意見聴取に係る計画ということで先ほどから出ておりました。アンケートの内容について、説明の方よろしくをお願いします。

【清柳副主任】

失礼します。こども政策課の清柳です。私の方から「こども・若者の意見聴取」についてご説明いたします。資料2-1をご覧ください。

まず、意見聴取を行う目的ですが、こども計画の策定にあたって、当事者であるこども・若者の意見を聴取することにより、本市の実態や当事者の思いを把握し、それらを反映した計画内容とすることを目的としております。

次に主な方法ですが、基本的にはウェブアンケートと対面による意見聴取の併用で行ってまいります。

まずウェブアンケートでは学校現場でも二次元コードを読み取りタブレット端末等で回答する方式は主流となっていること、保護者の方もスマートフォンを活用しての回答は手軽で行いやすいとの声が多いということ、人前や限られた時間の中で意見を伝えづらい子もじっくり考え、いつでも回答することができるということから取り入れております。

また、ワークショップ・出前授業・個別または少数のヒアリング形式等、対象によって望ましい方法で行ってまいります。小中学生や高校生は、慣れた集団・環境で行う方が発言しやすかったり、保護者の送迎も不要であったりということから職員が出向いての出前授業の形を予定しております。

次に、テーマについてです。

関係各課・関係機関で協議をする中で多く挙げた課題が、先ほど委員の皆様からも多く挙がりましたが、「居場所」についてでした。ウェブアンケートにおいては各世代に放課後や休日の過ごし方、あったらいいなと思う場所やサービス・施設…などの項目を設定しまして、こども・若者世代の望む居場所について聴取してまいりたいと思っております。小中学生に向けては夏休み期間を活用し回答してもらおうと、終業式前のところで各学校を通じて配布をさせていただいており、いま様々な意見が届いているところです。参考に、配布したアンケートや、今後配布予定のアンケートを資料2-2として配布しておりますので、またご確認をお願いします。

また、こども大綱の目指す「こどもまんなか社会」の実現のために、こども・若者がいきいきと活躍できるまちであるための居場所や機会を充実させていく必要があることから、対面での意見聴取においては

【若者が住み続けたいと思う松江にするには】【「こどもまんなか松江」についてみんなで考えよう】

といったことを対象となる年代に応じてテーマに設定させていただきまして、ワークショップ及び出前授業での意見聴取を行きたいと考えています。後ほど詳細のご説明をさせていただきます。

次に、周知の方法ですが、

今後、松江市公式ホームページ内に意見聴取のための特設ページを設けまして、アンケートやワークショップ・出前授業等の情報を随時掲載するなど、情報発信をしていきたいと思っております。

そして学校等を通じたチラシの配布、子ども達の集い、各支援センター、こども食堂など可能なところにホームページのチラシの掲示を依頼させていただき、その他にもございます市公式 SNS を活用した情報発信を行っていく予定です。

そして、意見聴取の対象とスケジュールですが、資料2-4に概ねのスケジュールをまとめております。

なお、外国籍や、障がいのある子ども・若者、ヤングケアラー、不登校・ひきこもりなどの方については、意見が埋もれないよう、しっかり聴取していけるようにとご意見いただいておりますので、関係機関や職員と可能な手法を相談の上行うこととしまして、現在、当事者である方への意見聴取が難しい場合は、経験者に対するヒアリングを検討しております。

最後にその他として、「悩みごと・困りごとに関するミニアンケート」です。悩みごと・困りごとの有無やその、相談相手、相談方法について尋ねておまして、これは子ども～若者のうち誰でも回答できるものとしております。

特設ホームページに掲載し、答えたいと思った人に答えてもらえたらいいなと思っております。

続いて、資料2-3のワークショップの案をお願いします。

日時は令和6年9月10日（火）13：30～15：30

場所：松江市役所 新庁舎2階 東会議室

対象：市内在住、18歳以上の若者としておりますが、大体20代30代を想定しておまして、上限は39歳とさせていただきます。

定員：15名程度 応募方法：申請フォームより応募（多ければ抽選）

募集期間：令和6年8月5日（月）～21日（水）

事前資料提供：令和6年9月1日（水）

テーマは「若者が住み続けたいと思う松江にするには」です。

テーマ設定の理由ですけれども、子ども大綱の目指す「子どもまんなか社会」はすべての子ども・若者が身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会であります。また、人口減少、若者の県外流出が課題となっている本市において、若者世代が「ここで住み続けたい」と感じてもらえることが重要であると思えます。そのために、子ども・若者に対して、多様な遊びや体験、活躍できる機会を充実させていく必要があると考えております。

そこで本ワークショップで、若者の目線で、

- ・いま現在、若者が自分の意見を聴いてもらえる社会（まち）だと感じているか とか、
- ・どういった機会や制度があれば社会（まち）に参画していると感じられるか、
- ・若者が中心となって活躍できる社会（まち）にするにはどうすればいいと思うか、
- ・若者の求める、遊びや体験を楽しめる場所・施設・サービス・機会など
- ・子どもの時にこんなことやってみたかったなあ、欲しかったなあと思うもの

等について問いかけまして、子ども・若者がいきいきと過ごせる・活躍できるまちにするために必要な居場所、そして機会を充実させるための施策に反映したいという思いからテーマとさせていただきます。予定しています当日の流れは記載のとおりです。

続いて裏面をお願いします。こちらは出前授業の案です。

テーマは【「子どもまんなか松江」についてみんなで考えよう】としており、

目的ですが、子ども大綱の目指す「子どもまんなか社会」をもとに、松江市においても、子ども達が中心となり活躍できるまちを目指すため、多様な遊びや体験、活躍できる機会について、子ども達自身の考えを聞くことを目的に、本講座を実施することとしました。

授業の形式としましては、出前授業の活用を申し込んでくださった学校に職員が訪問して行っていきます。

授業の流れは記載のとおりで、こども基本法やこども大綱に触れながら、市役所やこどもに関する施策についてクイズ形式で紹介をしていくなどし、最後には「こどもまんなか」の松江を実現するために「〇〇があったらいいな」といったことをグループごとに考え発表してもらおう想定しております。

続いて、資料2-4意見聴取のスケジュールをお願いします。

いま、小中学生のアンケートの回答期間でございまして、若者世代向けのワークショップの準備も進めております。出前授業やヒアリング等は9月10月にかけて行っていき、11月頃にはフィードバックの公開を目指したいと思っております。

最後に資料2-5には、ミニアンケートの内容を参考におつけしております。以上です。

【高橋分科会長】

はい、ご説明ありがとうございました。

趣旨としては、計画策定のための、こども若者の意見を聴取して、参考にしていくということだと思います。1つ目のところ、Webアンケートと対面での意見聴取、両方活用していくということ。テーマについては、今「居場所」というところが多く挙がっていますが、そういった部分を中心という事で書かれています。

それから、対面方の内容として、実際に学校に出向いて出前授業をしたり、それから若者を集めて集いを開いてその中で意見を聴取していくという風な、結構積極的に意見を集めていくということですが、そのあたりはいかがでございませうか、よろしいでしょうか。

実際の内容として、資料2-2の、アンケート項目等設けているところでございます。この辺で、細かいところですけども、お気づきの事がございましたらお願いします。

それから、最後に若者アンケートという形での項目もあるところです。そのあたり、ご意見ご質問等ありましたらお願いします。

【長岡委員】

ワークショップはすごくいいと思うんですけど、ホームページにも募集を載せていくんですか？もう5日から募集期間がもう始まりますけど。ホームページに載せるんですか？

【池田課長】

はい。ありがとうございます。ホームページに載せたりですね、市の公式のSNSで募集したりだとか、大学や育成校の方にこう大学とか専門学校とかですね、そういったところにも少し働きかけをしたいと思っております。

委員の皆様の中で、ぜひ、参加したらいいなとか、せっかくの機会なので、声かけてみようかなということがあれば、非常にうれしく思いますよろしく願いいたします。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。

さっき聞くと、18歳以上。上限を・・・？

【清柳副主任】

一応39歳とさせていただいております。

【高橋分科会長】

はい。ありがとうございます。まあ若者の意見を聞いていくということで。

その他はよろしいでしょうか。

【杉谷委員】

すいません。この出前授業の件なんですけれども。この中の流れの中の5番。

「〇〇があったらいいな」を考えるっていう記載があります。

小学校6年生の国語とか総合の学習で、自分の町の未来図、みたいなところを学習したりはするんですけど、それをするにあたってかなりの時間をかけます。で、出てくる意見が、その持って行き方にもよると思うんですけど、こどもの発達段階で出てくるのが、パッともう例えば遊園地だったりとか、そういうようなことが出てきちゃうかなっていうところがあって、例えばこの出前事業をやっても、どこまで深めたところを意見として求めたいのかっていうところが、ちょっと難しいかなあとあって、逆に「〇〇があったらいいな」じゃなくて、こういうもう1個のアンケートの方にあった、「10年後の松江市どんなまちにしたいか」みたいなの、ちょっとアバウトっていうか、こんな大きなものの中で、そうするとこどもは、その中で具体的なことももちろん出てくると思うんですけど、小学生に聞く時に、「何とかがあったらいいな」っていうのは、あまり現実的なことは出てこないかなあって、こども一生懸命考えるんですけど、考えたことが、この計画の中で、じゃあどれほど反映されたものになるのかっていうところは・・・いや反映されたものができるんでしょうか、と逆に聞きたいぐらいなんですけど。

っていうのは、もう1つのこのアンケートの方が、ほとんどの項目が「任意、任意、任意」で、結局じゃあこれって何を答えるのか、なかなか結構、1年生からって対象がなって、すいません私きたときに、高学年だと自分はパーツと見て思っていたんですけど、この部分を答えて欲しいという思いがあるのかっていうところが・・・「任意」となっている・・・。

これ家庭に返したので、取り組むかどうかは本当に親さん次第かなっていうところがあるんですけど、熱心なところは任意であろうと、なんか親さんが一生懸命打たれるのかなあと思ってます。

はい。ていうのをちょっと思いました。

【池田課長】

こども政策課池田でございます。ありがとうございました。

我々としても「〇〇があったらいいな」っていう部分は、少し悩んでおりましてですね、先ほどいただ

いたようなご意見も参考にしながら、検討したいと思っております。

あと、アンケートについてすいません既に配布済みでございまして、今後の参考とさせていただきたいんですけども、あまり強制するものかなと思っております、割と「答えたいところを答えてね」というようなスタンスですね、ちょっと「任意」というような形にさせていただいたところです。また、今後のところでちょっと参考にさせていただきます。

【高橋分科会長】

はい。もうすでに配布済ということですね、変えようがないところですけども。

【池田課長】

すいません。ちなみに、もう回答は結構いただいておましてですね、今大体 30 件以上いただいているところでございます。ちょっと内容、いわゆる件数を最終的に 8 月 30 日で区切っておりますので、それ以降またちょっと再度件数によってはお願いをすることがあるかもしれませんけれども、現在の状況としてはそういった状況でございます。

【杉谷委員】

お願いっていうのは学校にですか。どこにお願い？

【池田課長】

また再度アンケートの同じような通知をですね、出させていただくこともちょっと検討させていただきたいという風なことを思っております。

【杉谷委員】

家庭配布は学校としてはいくらかでも協力するんですけども、これを学校で取り組んでということになると、ちょっと厳しいかなっていう。

【池田課長】

はい。ありがとうございます。そういったことはございません。前回と同じような配布をお願いするというところでございます。

【福島委員】

失礼します。このアンケートですけども、私も白潟地区もやってるんですけども、松江市全体というよりも地区ももう必死でして、私たちも活動で、地区の、こども達、児童生徒の子達、アンケートをとったんですけど、この白潟地区の、こういうと、内容が出てるんですけども「あったらいいな」じゃなくて、「好きなとこどこ」みたいな感じで聞いて、そのこどもの好きなところもちょっと把握して、そこ、何か充実させていこうかなと思ったりとか、好きなところがわかるとこういうのを求めているんだっていうの

が、わかって、そんな感じで必死にちょっと白潟地区に、やらせようっていう取り組みをするんですけども、このまさに若者が住み続けたいと思うまちっていうのを、必死にやって、高2のうちの長男も出ないように一生懸命と思うんですけども、こういうワークショップも、やっていただいて、ありがたいなと思います。これはまた、どういう様子だったかをお知らせしていただけたらなと思います。

【高橋分科会長】

ありがとうございました。そのほか。

【畠山委員】

確認なんですけど、このアンケートを、意見聴取のフィードバック公開とスケジュールにあります。で、今まで基本方針からいろいろ施策とかありますけども、アンケートの結果、例えば、これは児童福祉ばかりじゃなく、例えばこんなところがあったらという、さっきの遊園地・・・結構案内出てきたときに、市の施策とかどういう風にそのアンケートが反映されるのかなと、考えておられるのか・・・まあすべてがどうなるかということではないと思いますけども、とってどうするのか、というところを確認したいです。

【池田課長】

こども政策課池田でございます。

内容で、市としてできることできないことっていうのも、どうしてもございますので、その辺を精査しながら、この分科会にも、こういったご意見があったということを出しながらですね、事業に反映できることをとにかくやっていきたいという風に思っております。

結構、これこどもさんの中でも意見としてあるのは、雨の日も遊び場っていうことがやっぱり少ないというようなご意見がございます。そのことは総合計画にも掲載をしております、そういったような形でですね、いただいたご意見、いろんな方法で、叶えることができるようにですね、こちらとしても尽力していきたいという風に思っております。

【清柳副主任】

すいません追加で・・・こども政策課の清柳と申します。

もちろんいただいた意見の中で、活かせるところは活かして、例えばこの骨子で言いますと、先ほども出てきました「放課後等の居場所」であったりとか、基本方針③のところの、「こども若者が活躍できる」とか、「体験できる居場所や機会の充実」というような分野のところの参考といいますか、そちらにしっかり反映ができたらいいなと考えておるところです。

フィードバックのフィードバックの形といたしましては、いただいた意見で、活かせるところは、「こういうところに参考に活かしました。」とか、現実的に難しいところは、「こういった意見があったんですけど、こういう理由により、今はちょっと難しいです。」とか、こういういただいた意見で、「こういう思いを持ちました。受けとめました。」と、しっかりいただいた意見を受けとめましたよっていうところをまとめて公開ができたらいいなと思っております。

この意見聴取はこども計画策定のためだけに行うものではなくてですね、こども基本案の中に、今後そのこども若者がしっかりと意見を聞いてもらえるようになっていくところで定められておりましたね、これからそういったまちづくりをしていくにあたっての第一歩じゃないですけども、「意見が言える。」

それで、「聞いてもらえるんだ。」っていうところを、こども若者の方々にしっかり感じてもらいたいなと思っております。以上です。

【高橋分科会長】

ありがとうございます。畠山委員よろしいでしょうか。

その他・・・はい、ありがとうございます。

先ほどから上がっております、ワークショップ、出前授業・・・生の意見がたくさん出てくることを期待したいかなと思います。では続いて議事の（3）です。

特定教育・保育施設の利用定員についての説明をお願いします。

【池田課長】

こども政策課の池田でございます。

私の方から「特定教育・保育施設の利用定員」についてご報告いたします。

資料3をご覧ください。

まず、施設の運営等に係る費用を支払う施設については、子ども・子育て支援法の規定に基づく特定教育・保育施設としての確認が必要であり、利用定員を設定することになっていますが、前回の分科会以降、確認を行う施設はありませんでした。

同じく、2-1で、新設による利用定員の増減はございません。

次に、2-2、定員の変更による利用定員の増減でございます。

みつぎ古志原保育園については、0～2歳児のみ、3号のみの受け入れから、保護者がより安心して預けやすい保育園とするため、全年齢の受け入れを可能にする変更です。

坪内学園附属認定こども園については、定員を実態に合わせ調整するものでございます。

利用実態に即した変更であり、在籍児童は継続して預かることにより不利益等生じないことは確認済しております。

また、前回報告において城東保育所の3号認定及び2号認定の人数を逆に報告していましたので、訂正をいたします。

3は、施設種別ごとの利用定員でございます。すべての種別の合計は1号が3名減、2号が14人増、3号が14人減、差し引き3人の減でございます。説明は以上でございます。

【高橋分科会長】

今の説明につきまして、ご質問・ご意見ございませんでしょうか。

【藤原委員】

母推の藤原と申します。これについてかよくわかりませんが、会長の方から、ぜひ質問をして来てくれということがありまして、こども誰でも通園制度というのが試験運用が今月から始まっているということだそうです。松江市さんの方ではこれがどうなっているかということについて、会長の方からぜひ質問してきてくれということだったので、ぜひ、わかる範囲でお願いいたします。

【池田課長】

こども政策課の池田でございます。こども誰でも通園制度というのは国の方が新たに新設を目指す制度でございます。令和8年度から本格実施でございます。

今は、6年度7年度試行実施をして、どんな課題があるのかということ国が洗い出している段階でございます。この試行実施については、希望する自治体が手を挙げて、補助を受けて行うものですが、本市の方は、試行実施段階では少しまだ課題の整理が、国の方の課題の整理が十分ではないということもあって、まだ試行実施の方はしておりません。

引き続きですね、ちょっと課題を見極めながら、令和8年度の本格実施に向けて、様々ちょっと検討してまいりたいという風に考えております。

【高橋分科会長】

よろしいでしょうか。

【藤原委員】

はい。わかりました。それじゃ、令和8年度から実施を目指す。

【池田課長】

おっしゃる通りでございます。

【高橋分科会長】

その他、ご質問、お願いします。

【武田委員】

すいません。こどもにもアンケートとっていろいろと、試行錯誤でいいもの作ろうって、いいなと思うんですが、松江市だけで考えてると、なかなか見えてこないこともあって、近所の市でも、こういうことはいいことやってるっていうのがあったら、ぜひ調べて、ここの市でもできそうだというものは取り入れて欲しいと思います。

やっぱり私とか障がいを持った親が、転勤で出かけると、ここはこういうことがいっていいよっていう噂はいっぱい聞きます。そういったことが、やっぱり何か、広いようで結構狭くて、松江市だけにいると、わからないことが多いので、そういったことを見て、取り組めそうなことがあったらやっていただきたいなと思います。

例えば外国籍のお子さんで、通常の学校に入って大変困ってるっていう話も聞いちゃったりするんですが、学校の中ですかね、公民館も含めて分かりませんが、その国の言葉をしゃべれる人をボランティアでよぶとか。こども目線でそれこそ安心できるようにすることは、幾らでもできるので、そういうことはどんどんやっていく、いろんな方を学校に取り入れていく。例えば PT とか OT とかいろんな方が入れるようにしていく。そういうようなところで一緒に、こどもにとって優しい学校になっていけばと思っております。

【高橋分科会長】

議事（3）というかもう全般のご意見という形ですが、何かございますか。

【池田課長】

こども政策課の池田でございます。日常普段から島根県内の自治体の状況や、同じ規模である中核市の状況を、様々、市としても調査しながら、どういったことが、他の市ではやってるのかっていうことは情報収集しながらやってるところでございます。

引き続きいろんな事業を検討する上ではそういったことも重視しながら検討して参りたいと思います。

【高橋分科会長】

ありがとうございます。では（3）については、こちらへんでよろしいでしょうか。

それでは今もう全般のことが出ておりますけども何か、本日の全般につきまして、言いそびれたこととか聞きそびれたこととかございますでしょうか。

【岡田委員】

ちょっと1つ聞き漏らしたかもしれませんが、このアンケートの若者に対するアンケートはどこかへ配布される？高校か大学かどこかへ配布されるのでしょうか？

大学、開発されて、とられています。

【清柳副主任】

こども政策課の清柳です。これから行っていく予定であるものですが、まず高校さんの方に出向いて回って、ちょっと配布依頼、ご協力いただけないかなということを、依頼したいと思っております。あとはですね、積極的な若者さんたちがですね、イベントなどの情報収集されるために、こども政策課ではないんですけども他課の公式LINEの方に登録されている方々もたくさんいらっしゃいますので、そちらの方に積極的にご案内を流すようなことを考えております。

【藤原委員】

基本方針の②の上から2番目のヤングケアラーへの支援とありますけども、よくテレビとか報道でヤングケアラーのこと拝見する機会がありますけども、松江市でもそういう方増えているのでしょうか、話せ

る範囲で伺いたいと思います。

【峯次長】

こども家庭支援課の峯でございます。

ヤングケアラーの調査につきましては、昨年度、関係機関を通じて行っておりまして、例えば民生児童委員さんですとか、ヘルパーさん、ケアマネさん、そういうところに協力をいただいて、今関わっているケースの中で、ヤングケアラーと思われる方がいらっしゃるかどうかという調査を行っております。

その結果、ヤングケアラーではないかと思われる方が、30件程度いらっしゃいました。

ただもうすでにそういうヘルパーが入ったり、訪問看護が入ったりしていらっしゃる家庭でしたので、それ以上の介入が必要なかどうかということにつきましてはまた改めて、いろんな関係機関に聞きながら、そのケースを深めて、必要な支援につなげているところです。

ただ、もうすでに入っている、関係機関が入っているケースだけに、今調査をかけてますので、もしかしたら潜在的に、誰も介入ができていないケースもあるかと思っておりますので、そういったケースを、明らかにするために今年度は、学校を対象に、今調査をすでに行っているところです。

ただこどもさん自身にですね、調査をかけるということはまだ考えておりませんので、学校に向けて、そういう気になるこどもさんが、いないかどうかということは今調査しております。

多分個別のこどもさんに向けた調査につきましては、改めて、今後の検討課題ということで考えていきたいと思っております。以上です。

【高橋分科会長】

ありがとうございました。事務局の方から何か補足等ございますでしょうか。

はい。それでは、以上で、本日の議事の方終了させていただきます。活発なご意見、たくさん出していただきまして、ありがとうございました。進行の方を事務局へお返しさせていただきます。

【原田係長】

本日は貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

また高橋会長におかれましては、円滑に議事の進行していただきまして誠にありがとうございます。

次回のこの第3回目の分科会でございますが、10月の下旬ごろを予定しております。

議題といたしましては、いよいよ計画の細かい素案でございましたり、報告事項といたしまして、今日、ご提案いたしましたこども若者等の意見聴取の内容がどうであったかということをご報告したいという風に考えております。

時期が近づいて参りましたら改めて会議のご案内をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度第2回松江社会福祉審議会児童福祉専門分科会を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。

了